



擁書樓日記
十二

78
5756
12



門 又 6
號 5756
12

文政元
五月



権書倉日記
十二

高田早苗
二月

Handwritten text in a cursive script, possibly a diary entry or a list of items. The text is written vertically and includes some characters that appear to be from a different language or dialect.

Handwritten text, possibly a date or a reference number, written vertically.

擁書倉日記 文化十五年 五月 廿四日

戊午年

朔日戌戌暗村のたもよる中竹枝
たしとくくしとる有狸友とくささるが
くをくくく口鼓の第腹幾るをくくさ
さくありそ竹が物語のさちの人の初
は腸下より出はる家大さ曲より
りた人は胸下より出はる仲が
かたのささるより山人は鼻より
出はるささるよりとくくくくくくく

つらん

昔は暗我のまをさくぞくも
解をなすはを名づもくも
らん行よりくは程は安固なりと
がらふ

六日晴 和賢主は名は新後西栗也
和家うらみゆらん本多忠房より
云のゆとくあるもを和賢主ある
らへりつは信誓書
和家なれはあつれもうとくしはれ

あやせんれうちうたれど
ぐりうとをいしよのもうく
の自裁やし叶上うすくはる

大樽酒盡小樽愁
舞休三十年来春不断
始知人世

有涼秋

大樽酒盡小樽愁
舞休三十年来春不断
始知人世

子曰 子日 子日

躬和由深子古深知るに好老
江志之深亦凡の けもあまの頂
子のし知賢まきまき
十日雨のつ時より晴りのれり雨
あつた平田篤藏中川と右の山
崎まの山屋布をたていさげしは
とみはつたがしつをたてし
九日雨のつ時より晴の務は美二子
はとあまのまの皮もはなすこつは
是向のつを要するやうにすして諸

そがゆつた少刀をたてしは
たせあまの山屋布をたてしは
知るに好老のつ時より晴の
たつた平田篤藏中川と右の山
崎まの山屋布をたていさげしは
とみはつたがしつをたてし
九日雨のつ時より晴の務は美二子
はとあまのまの皮もはなすこつは
是向のつを要するやうにすして諸

喜し鳴崎得大郎お田の勢子何れ
乃五七なる方ぬをほせうし又ゆる
世同游は三細は保く年く時故を
しら五月雨とす

五月雨の流所の長水こそ
あまのうらととくぐあ

十二日早雲のつ時より時
名譽の部氏を先じつ
指足の人を先じつ
高嶋千重
くくく田中多力
壽のそのおの當年の賀のまらわも

實は今年九十六としりり
寺大僧正よりと年賀の壽物と
すわぬ高橋を伝はる賀光
ふすうん

十三日早雲或晴高幡金刺の
野つあわりの海よりや
領大塚村最勝寺の住僧以室を
とせよふたは金刺の末
室は其野つあわりの
乃五七なる方ぬをほせうし又ゆる

鳥のねねへはあみまふかろふまふか
あつこし

おつこしをうそくをあつこしをねねね
そつこしをうそくをあつこしをねねね

十四日曇り雨の時
平田篤胤
伊豆の山を登る時
鳥をうそくを

おつこしをうそくをあつこしをねねね
あつこしをうそくをあつこしをねねね

あつこしをうそくをあつこしをねねね
あつこしをうそくをあつこしをねねね

おつこしをうそくをあつこしをねねね
あつこしをうそくをあつこしをねねね

あつこしをうそくをあつこしをねねね
あつこしをうそくをあつこしをねねね

あつこしをうそくをあつこしをねねね
あつこしをうそくをあつこしをねねね

あつこしをうそくをあつこしをねねね
あつこしをうそくをあつこしをねねね

あつこしをうそくをあつこしをねねね
あつこしをうそくをあつこしをねねね

阿波海軍の兵士もあつたといふ事
うぐぐぐ 古伝をばらぐ 尖をたは
まの黒雲や晴ぬ風契せうすめ
雨ふり出たり 古伝をばらぐ
鳥海をたふすあつたといふ事
羊車や教子の好子あつた
十七日雨 舟力まらぬと好子あつた
舟を別まらぬと好子あつた
舟の山に板橋あつたといふ事
まらぬと好子あつた
古伝をばらぐ

十八日晴 山々の鳥の聲もあつた
應寺の賢主の板橋あつた
やうな舟をたふすあつた
如き左舟をたふすあつた
十九日晴 西風あつたといふ事
やうな舟をたふすあつた
舟の山に板橋あつたといふ事
廿日雨 和賢主の山崎をたふすあつた
舟をたふすあつた
舟の山に板橋あつたといふ事
舟の山に板橋あつたといふ事

廿一日晴 午時より白雨雷
日あり 夕暮れ 風あり 夕暮れ 夕暮れ
夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ
夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ
夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ

廿二日晴 午時より 夕暮れ 夕暮れ
夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ
夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ
夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ
夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ 夕暮れ

廿三日晴 午前 午後 午後 午後 午後
午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後
午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後
午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後

廿四日晴 午前 午後 午後 午後 午後
午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後
午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後
午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後

廿五日晴 正木 午後 午後 午後 午後
午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後
午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後
午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後 午後

田代んよち候も山お流に候
高子も相成る候所をうき
口も成る候を候へん社氏お流
を

祝詞おはす方と云へ
うらた刀代所田をたけ九水
相成る候を水鏡のたけ
やうらたの所たけあくるまら
廿六日暗相成る候所片
光山候候相成る候所片

廿七日朝おはす方と云へ
うらたの所たけあくるまら
相成る候所を水鏡のたけ
やうらたの所たけあくるまら
廿六日暗相成る候所片
光山候候相成る候所片

廿日晴 知賢主より廿三日迄あり
三日午舟好ましくつらふ舟
内多き為淋承差多きつらふ小
おき山柳場使をとおもふ
廿九日晴 日の赤く雷雨おき
行来より聲知賢主より河津保
中もつらふつらふ日心ち好
安固いよよよ

六月 己未大

朔日曇或晴 夕時白雨 夜より正

廿日卯 廿三日迄あり
廿三日午舟好ましくつらふ舟
内多き為淋承差多きつらふ小
おき山柳場使をとおもふ
廿九日晴 日の赤く雷雨おき
行来より聲知賢主より河津保
中もつらふつらふ日心ち好
安固いよよよ

侍るころはよゆやきとて候に
のれをあらみわたり藤原山中に
侍身法院まゆまはほりおと
る中一のりさきあやうく
ア
七日暗く少の原氏物産の福
はやめりお常事仲たゆま
常力まおん不井其時移
たきあは深志名お井た江介

方遊法に少侍其宮守形を
がまきうぐく行州上田あま
北菊りのれよとよらま
存るを種たるより侍家
國の節をわたりしあり
日暗く賢主長守を公山
柳鳴あゆみのちあるし
ふゆゆらんしあ清き
ふゆゆらんしあ清き
飛柳るのまを海を角がりあ

の金思ふに...
十七日...
十八日...
十九日...
二十日...

花山...
...
...
...
...

廿一日晴 去路は雨少 お茶に
田を耕す。板橋のきりぎりす
おもしろく 正午子時 山登り
舟に乗り ちよとちよと ちよとちよと
西庭より ちよとちよと ちよとちよと
橋にたむけ ちよとちよと ちよとちよと
廿二日 晴なり 時雨あり ちよとちよと
ちよとちよと ちよとちよと ちよとちよと
主より ちよとちよと ちよとちよと
ちよとちよと ちよとちよと ちよとちよと

廿三日 晴なり 柳をたむけ ちよとちよと
ちよとちよと ちよとちよと ちよとちよと
廿四日 晴なり 雨あり ちよとちよと
ちよとちよと ちよとちよと ちよとちよと
ちよとちよと ちよとちよと ちよとちよと
廿五日 晴なり ちよとちよと ちよとちよと
ちよとちよと ちよとちよと ちよとちよと
ちよとちよと ちよとちよと ちよとちよと

